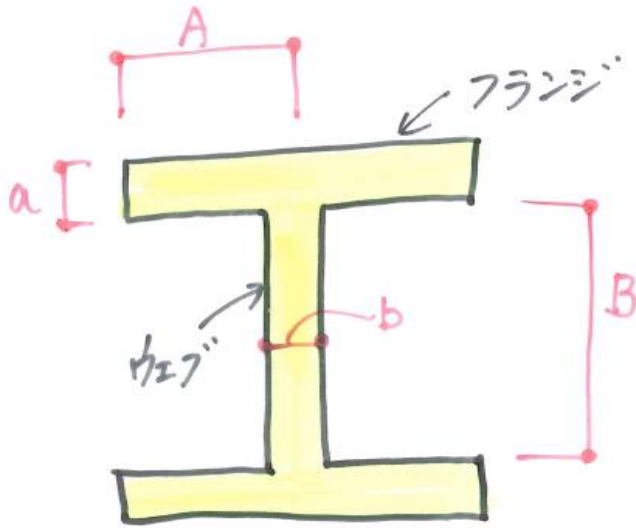


幅厚比



$$\text{フランジ幅厚比} = \frac{A}{a}$$

$$\text{ウェブ幅厚比} = \frac{B}{b}$$

幅厚比を小さくすることは、
 板幅が小さく、板厚が大きいの
 で、板の座屈が生じにくい。

図 フランジとウェブの幅厚比

出題問題

平成28年度 問題17	
鉄骨構造に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	
1	H形鋼を用いた梁に拘り に変更したので、横補剛
2	両端がピン接合のH形鋼
3	曲げ剛性に余裕のあるラ
4	H形断面梁の設計にお
「過去問」については、(公財)建築 技術教育普及センターとの過去問 の使用許諾条件により、「会員講 座」のみでの公開としている。 ここでは、参考として過去問が見れ ないようにしている(会員講座では 全問題を公開)。	
解答 (正解肢1)	
1	× 横補剛材は多いほど横座屈が生じにくいので、強度が高くなっても、横補剛の数は増加した方がよい。
2	○ 両端がピン接合のH形断面圧縮材の許容応力度は、弱軸回りの断面二次半径を用いて計算し、有効細長比を小さくするほど大きくなる。
3	○ 曲げ剛性に余裕のあるラーメン構造の梁において、梁せいを小さくするために、SN400B材の代わりに、より強度の高いSN490B材を用いる。
4	○ H形断面梁の設計において、フランジの局部座屈を生じにくくするため、フランジの幅厚比(用語解説:13.鉄骨構造②幅厚比参照)を小さくする(板幅を小さく、板厚を大きくすることであり、局部座屈が生じにくくなる)。

同一断面のSN490B材 材を用いた。
